

◆リレー寄稿
震災半年を過ぎて



ちばコープ
専務理事 熊崎 伸氏

全国の生協からご支援をいただき心より感謝いたします。

ちばコープでは被災した旭市の花のフラワーアレンジメント教室開催や福島から避難された障がい者施設への生活物資支援を行ないました。また、みやぎ生協ボランティアセンターとの連携で東松島市の仮設住宅でのふれあい喫茶をコープネットグループと共に立ち上げ、組合員リーダーも参加しています。

ちばコープ経営会で、再起した石巻の水産メーカー所長に被災当時の状況から復活までのご苦労などをお話いただき、「先に復活した会社がなんとか商売できている姿を地域で見せないと、後に続く会社がなくなってしまうから、絶対に負けない」という言葉が忘れられません。商品カタログ表紙掲載や宅配担当者の声掛けで多くの組合員に利用していただき、産地支援に繋がればと思います。引き続き、被災地の声を聴き、支援を継続していきます。

おおさかパルコープから贈られた食器を無償提供

いわて生協は、10月8日に岩手県下閉伊郡岩泉町の仮設住宅団地3カ所にて、約150人分の食器の無償提供を行ないました。食器は「仮設住宅の人を支援したい」という、おおさかパルコープの組合員より贈られたもので、今までに岩手県の仮設団地全体の3分の1の世帯を訪問し、約10トンもの食器を提供してきました。

食器のニーズは非常に高く、津波被害の大きかった地域を中心に提供を行なってきましたが、今回は組合員からの要望もあり、あまり支援の入らなかった岩泉町での提供が実現しました。食器提供は、食器の取り扱いや並んだ人へ行き渡るように配慮が必要なため、いわて生協では開催案内や当日の運営など、きめ細かな対応を行なっています。

手伝いに駆けつけた、三田地滋子さんと箱石久美子さん(岩泉町のこ〜ぶ委員)は、「仮設住宅では食器が不足しているのので、今回提供できてよかったです」と話していました。



人数が多いので、1人3個ずつお渡しする。



いわて生協、参加スタッフの皆さん。

コープふくしま・除染カー始動

除染カー外観。



除染カーには、さまざまな道具が積まれている。



コープふくしまでは、「除染環境応援カー」（以下除染カー）を準備し、10月より町内会や班、学童クラブなどといった団体単位の環境除染活動への無料貸し出しを開始しています。

除染カーは、2トントラックに、除染活動に必要な道具を一式装備したもので、高圧洗浄機、鍬、草削り、スコップ、長靴、強力枝切りバサミなどが積み込まれています。この除染カーは、「除染のために役立つ車が欲しい」というコープふくしまの声を受けて、リース事業において取り引きのあったオリックス自動車株式会社様のご協力などにより実現したものです。

除染カーは、他団体への貸し出しのみでなく、コープふくしまが窓口となって協力をしている除染ボランティアでも活躍しており、10月16日に福島県伊達市で行なわれた除染ボランティア活動でも、使用されました。